

2021年7月果実概況

北日本は気温高で少雨、北日本・東日本日本海側は多照。東日本太平洋側は降水量が多かった。

12日にかけて関東南部や東海を中心に雨が長く降り続き、神奈川県熱海市では土石流が発生。7日には島根・鳥取県、10日には鹿児島県で線状降水帯により非常に強い雨が降った。一転して、中旬以降は北日本を中心に晴れの日が多く、気温高、降水量はかなり少なかった。関東の梅雨明けは平年に比べ16日早く、日々気温は30度以上に上昇した。

果実全体の入荷量は前年比114%、価格497円(前年比103%)。ギフト関係でハウスみかん・桃の引合いは強く、早い梅雨明けから真夏日が続き、すいかの荷動きは今まで以上に良かった。23日より東京オリンピックが開催したが、需要については、緊急事態宣言下も相まって変化は見られなかった。

ハウスみかんは、入荷102%、価格1,019円(100%)。主力佐賀産は前進出荷のため、7月中旬にピークを迎えた。愛知産は6月に出荷前倒しだったことから7月の入荷量はおよそ2割減少した。梅雨入りが早かったため、肥大が進み小玉を中心に引合いは強まった。

りんご類は、入荷190%、価格363円(52%)。貯蔵量が少なかった前年に比べ、「ふじ」「ジョナゴールド」「王林」「シナノゴールド」は販売終盤でも貯蔵量は潤沢にあり、入荷は前年の2倍近く増加。系統物は7月中旬頃にほぼ切上がった。価格は前年の半減も、平年比では2割安で落ち着く。

日本なし類は、入荷243%、価格581円(89%)。長梅雨による影響で少なかった前年に比べ、各産地梅雨入りが早く、玉肥大も順調に進んだ。ハウス物中心に生育は順調も5日程度早かったことから、トンネル物も始まる下旬にピークが集中した。特に減少著しかった前年に比べ各地数量は倍近くの入荷となったが、平年比でも多かった。

もも類は、入荷119%、価格733円(99%)。各地生育進捗は早く、少雨の影響で玉肥大が鈍く若干小玉傾向も、長雨により少なかった前年より作柄は良かった。入荷は2割程度増加となるが引合いは良く、ギフト需要に対し玉流れも良かった。価格は小玉傾向の中、ほぼ前年並みに推移した。

すもも類は、入荷101%、価格619円(94%)。主力の山梨産は豊作基調にあり、品種リレーも順調に進む。山形産は4月の低温を受けて、数量2割減となるも前進出荷にてピーク時の入荷量は多かった。福島・長野産も出荷量は多いものの全体量は前年並み。

ぶどう類は、入荷112%、価格1,719円(108%)。「デラウェア」は島根産が7月初旬で切り上がり、山形産は7月中下旬にピークを迎えた。「巨峰」は山梨産が7月下旬から、「ピオーネ」は岡山産が中旬からピークを迎え、数量は長梅雨で少なかった前年に比べ梅雨明けが早待ったことでより多くなった。「シャインマスカット」は、平年並みの生育。各地成木進み前年比2割増。

メロン類は入荷90%、価格534円(117%)。主力産地は関東から東北へと移行し、「クインシーメロン」は潤沢。「タカミメロン」については、千葉・茨城ともに生育前進から6月へ入荷が前倒ししたため、大幅減となった。「アールスメロン」は静岡産の生産量減少を受けて若干減。北海道産メロンについてはコロナ禍で外国人研修生が来日できず、生産量が1割減。

すいか類は、入荷 113%、価格 237 円(128%)。主力山形産は生育良く、長雨の影響で少なかった前年比 6 割強増。新潟産は天候不良から生育遅れ、前年比減。総体で入荷量は 1 割増も、梅雨明けが早かったことから引合いが強く、販売環境は良かった。

国産マンゴーは入荷 184%、価格 1,875 円(82%)。宮崎産は 7 月上旬までピークが続いた。沖縄産は中下旬にピークを迎え潤沢な出回り。航空便の回復もあり、2 倍以上の入荷となった。量販店での販売も好調だが、梅雨入りして下級品の比率も高まったことから価格は軟調推移。